

学期末の終わり方や夏休みの過ごし方は、2学期のスタートに重要な意味をもちます。全ての子どもたちが安心して2学期を迎えるために、期末懇談の持ち方や夏休み中の支援について、学校全体で共通理解を図ってみましょう。

**テーマの例① 2学期につながる期末懇談の実施について**

期末懇談の目的ごとにポイントを整理しましょう。  
 (例) A 保護者との信頼関係の構築 B 児童生徒理解を深める  
 C 次なる一手の検討(作戦会議) D 組織的、継続的な支援についての共有

**A・Bのポイント** 「先生は普段見てくれている」という実感を保護者に感じ取ってもらうために、子供の良さや様子を具体的に伝える。様子を聞き、児童生徒理解を深める。

担任以外の先生のほめ言葉を伝えることも考えられます。学校全体で大切にされていることが家庭により伝わります。  
 ※担任が子供の様子を伝えるだけの懇談にならないよう、家庭や地域での様子について問いかけ、保護者から様々な情報を引き出しましょう。

- ◆家庭の様子や親子関係
- ◆保護者から見た友達関係
- ◆これまでの成育歴など

**Cのポイント** 課題の克服方法や夏休みの生活プラン等について保護者と作戦会議をする。

規則正しい生活や苦手教科の克服等、充実した夏休みにするために、夏休み前に保護者と次の一手を話し合うことが重要です。

～いませんか？午前中に眠そうにしている子～  
 ・午後、眠くなる → 誰にでも起こりうること  
 ・午前中、眠くなる → **睡眠不足**  
 午前中に眠そうにしている子供については、学校での様子を伝え、保護者と協力して生活習慣の見直しのための作戦を考えましょう。

休みの日は、一日中ゲームばかりしているんです…

ゲーム機には、「プレイ時間の設定」機能もあります。家で活用してみませんか？

**Dのポイント** 気になる子供については、今後も継続的、組織的に支援することを伝える。

学級の中で友達から嫌なことを言われているみたい…

他の先生とも協力して、今後も様子を見ていきます。いつでもご相談ください。

時々、学校に行きたがらないことがあるんです…

毎日声をかけてみます。定期的にお母さんに相談をさせて下さい。一緒に作戦を考えましょう。

**テーマの例② 夏休み中の子供たちを見守る取組について**

2学期のスタートに不安を抱きそうな子供の姿を想定してみましょう。

前年度までに不登校経験があったが、出席して頑張っている。

学業不振や友人とのトラブル等精神的動揺が生じる出来事があった。

**頑張りすぎた1学期の反動モチベーションの低下 2学期への不安 基本的生活習慣の乱れ**

1学期や前年度までの実態から、夏休みの宿題を完了させることが困難だと予想される。

家庭で十分なサポートが得られにくく、昼夜逆転等、生活が乱れる可能性がある。

大きな行事に対してプレッシャーを感じやすい。

**取組のポイント** 電話連絡や家庭訪問を実施し、夏休み中の子供の状況を把握する

「気にかけているよ」「2学期に会って話を聞くのを楽しみにしているよ」というメッセージが、子供に伝わるのが大切です。

しばらく出会えていないけれど元気になっていますか？

まだ終わっていない宿題を先生と一緒にしませんか？来られる時間に来てみませんか？